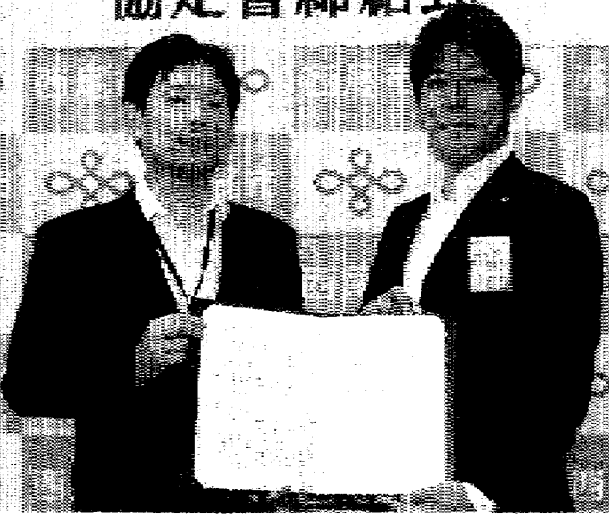


市民討議会開催で協定書

市と西尾青年会議所が締結

西尾市は二十五日、今秋に予定している一に「お市民討議会」の開催に向け、共催する西尾青年会議所(河合恒一理事長)との役割分担を明確化するための協定書を締結した。



協定書を手にする中村市長(左)と河合理事長

この関係や役割分担、相互協力の内容を定めるもの。小牧市など先進事例を参考に、青年会議所と行政が協定書を結んだ。

相互協力の理念は、マ両者の活動や立場を理解し、対等なパートナーとなるよう心がける▽市民討議会が、市民から多くの意見を集められるよう両者協議の上、納得いく形で開催する▽討議の手法、効果を共に検証し評価するとともに、市民からの意見を真摯に受け止める、の三項目を明記した。

また役割と責務としては、青年会議所が討議会を調査、研究して運営することや開催後に手法や意見を評価し報告としてまとめ、市に提出する

とともに今後の活動に生かすとしている。また、広く周知するため広報活動を展開する。

この日、市役所で協定書の締結式があり、中村健市長と河合理事長が協定書に署名した。

河合理事長は「市長が発表されていたサイレントマジORITY、内なる声を聴くという背景がこの事業にあると考えている。青年会議所としてやらなければならないことでもあると考えている。今後、しっかりとした会議を聞き、やり方を報告

させていたたく。われわれとしても、西尾市側としてもぶれないことは、すべてが西尾市のためになると考えている」と述べた。

中村市長は「声なき声が聴けるかという批判もあるが、口先だけで批判するのは簡単だが、しっかりと住民自治の観点から市民参加を推進するために行動している青年会議所には敬意を寄せている。市民の声をしっかりと聴いて行政に反映させる手法、市民が行政に関心を持っていただく手法と

協正音御新工

一日一書

西尾市 杉山 青苑

滄桑

そ う そ う 滄 桑

この世の物事は移り変わり浮き沈みが激しくて、恒常的なものはひとつもない。
滄の大海原。海と桑とで何を表わしているか、常におなじで変わらないうちのむすずかしさをかんじます。

「福北産」の菜種油に

市民団体が児童と収穫

西尾市の市民団体「食料と農業と健康を守る西尾の会」(石原政敏代表)は二十五日、市立福北北小学校三、四年生八十人とともに菜種の収穫体験を行った。



足で踏んで菜種を落とす児童ら

年度が一環が取り花工に参加。児童と花がさいされ、この運がの花が踏んぱり、その飛はる昔、喜ね寝ね梅雨の人生なん幼稚平成